

お知らせ

INFORMATION

No.2015-13
2015年3月
病体生理研究所

検査内容及び採取容器の変更について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

この度、下記項目におきまして現行試薬販売中止のため、検査内容及び採取容器、採取方法の変更をさせていただきます。

何卒、ご了解賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

【検査内容の変更について】

- ◆ 頸管膺分泌液中癌胎児性フィブロネクチン
[14030] …検査案内掲載 P.37

《変更日》2015年3月30日（月）受付分より

【検査内容の変更について】

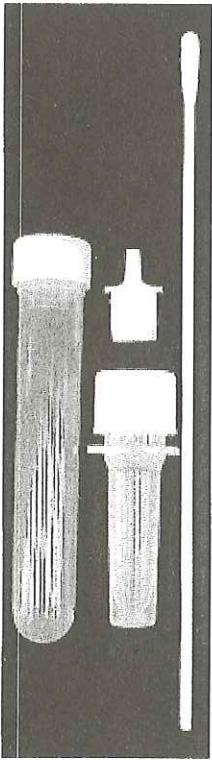
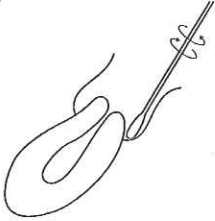
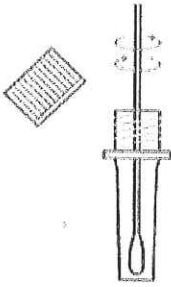


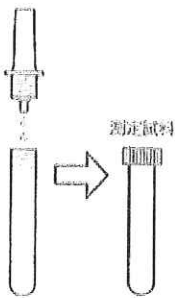
現試薬販売中止に伴い、新試薬に変更させていただきます。
併せて、採取容器および検体採取方法を変更させていただきます。

【現試薬と新試薬の比較】

		現試薬	
		—	+
新試薬	—	28	2
	+	1	23

判定一致率：94.4% (n=54)

【新容器および採取方法】

新容器No.45	採取方法		
 <p>内 容：抽出液 保存方法：室温 有効期限：1年</p>	<p>①</p>  <p>専用綿棒を後臍円蓋に挿入し約10秒間回して分泌液を吸収させます。 【ご注意】 検体採取時に無理な力がかかりますと、綿棒が折れる可能性がありますので、十分ご注意ください。</p>	<p>②</p>  <p>検体抽出容器の白色キャップをはずし、分泌液を吸収させた綿棒を浸けて、5回程度綿棒を回します。(この際容器から液がこぼれないよう注意してください。)</p>	<p>③</p>  <p>綿棒を検体抽出容器から引き抜きます。</p>
	<p>④</p>  <p>検体抽出容器に検体濾過フィルターを取り付めます。</p>	<p>⑤</p>  <p>検体抽出液の全量を検体保存チューブに滴下し、チューブの蓋を締めて必ず凍結保存してください。</p>	<p>注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検体の採取は陰洗浄前に行ってください。 ・ 検体中に精液が混入しているときは、その検体は使用しないでください。 ・ 検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。 <p>検体保存方法は絶対凍結です。</p>

以上